

## <4時から夢塾> 「校長メッセージ その1」

第15回「4時から夢塾」は、12月8日（火）に、上北谷小学校の川崎英郎校長先生から「学校の歴史を学ぶ大切さ」の演題で、ご講話を頂きました。以下、講話の概要です。



### 学校の歴史を学ぶ大切さ —歴史を探る楽しさ—

上北谷(小学校)の歴史の断片紹介と学校の歴史を調べる手法、その面白さと大切さについて話す。まずは「歴史って何だろう」…歴史の流れの中に生きる私たちですが…

#### 1 クラシックって何だ？

- クラシック音楽…レコード最晩期に、音楽を楽しんでいた世代である。
- 音楽の今につながる二つの出来事…エジソンらによる蓄音機の発明。スピーカーの発展がポップスの誕生に。
- 唱歌『里の秋』で「♪母さんとただ二人」とあるが、なぜ二人なのか？
- なぜピアノは黒？ 開国後の欧米で日本文化ブーム「ジャポニズム」の影響。



#### 2 校歌から

- 校歌の2番に「千越川」とある。これは稚児清水川である。栃尾の軽井沢の鬼(茨木童子)伝説に由来をする。この川の源泉(清水)が軽井沢。童子=稚児。
- 校歌の3番に「家のはり 国の柱と そそり立つ 羽黒の杉の…」とあるが、これは、若者を樹木に見立てて、国を支える人材として期待を寄せているのである。「羽黒の杉」は、栃尾の小貫にある羽黒神社で、その鎮守の森の杉の木のことである。明治22年に、上北谷村ができたが、この時は小貫も入っていた。小貫は昭和の町村合併で栃尾へ編入をした。



#### 3 学校沿革史から

- 明治・大正期の実業家：外山脩造（アサヒビールや阪神電鉄、浪速銀行等を創業）は、小貫の出身。上北谷を地元と捉え、地元の子どもに寄付（明治42年に学校基本金2千円：今の4億円）をくれた。
- 明治36年に、「唱歌科・裁縫・農業科」ができる。新潟県は、小学校の就学率が全国で下から3番目と低かった。特に女子が低かった。明治30年には、栃尾郷で「子守り学級」も認めていた。
- 明治31年、各家で白桐を植え、15年間栽培し売却、学校の資金とすることを始めた。
- 平成9年、矢沢宰の絵を体育館壁面に描いたり、子どもの作品作りの「詩の絵作業」をやった。

#### 4 地域の姿から

- 大正2年、栃尾鉄道が栃尾～浦瀬間で開通。学区内に本明駅・太田駅・上北谷駅が出来た。
- 上北谷村は繭の生産が盛んで、業者が村に買い付けに来た。明治30年中頃「組合」を設立した。
- 矢沢宰は「上北谷駅からトンネルまでの坂道は高原を走っている感じを与える」と日記に書いた。
- 昭和24年、県立栃尾高校上北谷分校が開校。昭和42年に閉校になる。

#### 5 まとめとして

- ふと思ったことから、歴史を手繰ってみたことを話させてもらった。皆さんも学校の歴史を探ってみてはいかがでしょうか。



#### 参加者の声

- ・歴史を複数の視座から重ねてみることで、ずれや重なりが見えてくることに共感をした。
- ・学校の歴史を学ぶことにより、その時代、時代の背景を感じ取ることができることを学んだ。
- ・勤務校の歴史を、沿革史で紐解かれ、貴重な資料を分かり易く説明を頂き、大変勉強になった。
- ・学校の「今」だけに目を向けるのではなく、「過去（歴史）」を知ることが必要なのだと思った。
- ・自分の興味あるところから、歴史を掘り下げていく楽しさや面白さがよく分かった。
- ・歴史を一つの面から見るとはならず、多方面から重ねてみることで新たな発見があると学んだ。
- ・自校の成り立ちや地域の始まりを知ることは、これからの学校づくりに関係すると確認できた。